媒体資料

### 「終活」をテーマにした日本初の定期媒体

# 終活ノナエ

~あなたの供養・葬送・相続を考える~



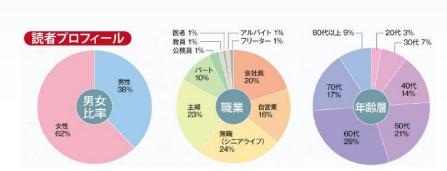
# いつか迎える「その時」。

### 最期と死後の憂いをなくす専門季刊誌

誰もが等しく迎える人生のエンディング。でも、具体的な情報はまだまだ少ないのが現実です。 価値観の多様化に加え、少子化や単身世帯の増加もあり、自分のエンディングを自ら考えざるを得ない人々の存在は確実に増えています。葬儀や戒名の値段はどう決まるのか。「争族」にならない「相続」とは? 終末医療をどうするか。あなたが望む供養とは…。死をタブー視することなく、豊かで悔いのない終活を考えていくのが、「終活読本」です。 \_\_\_\_\_\_\_

#### ■「終活読本」媒体の特長

- ①死をタブー視しません! 明るく扱います。
- ②読み物、HOW TOモノを両立
- ③チャート、グラフ、写真を多用
- ④読みやすい大きな活字
- ⑤毎号に「供養」「葬送」「財産」コンテンツを収容



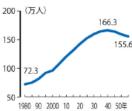
主な読者ターゲットは、 60代・70代以上の男女、 おひとりさまの男女

## いま、なぜ「終活」なのか

「終活」マーケットは確実に増加していきます。

#### 高齢化に伴い死者数は2040年まで増加

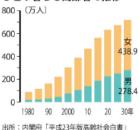
#### 死亡者数の推移と将来推計



出所 2010年までは国勢調査による実 績値。15年以降は国立社会保障・人口 問題研究所「日本の将来推計人口」(06 年12月推計)の出生中位・死亡中位仮 定による推計結果 高齢化の進行とともに 年間の死者数は右肩上 がりを続ける。2030年に は160万人を突破し、40 年には166.3万人と、10 年の1.4倍に達する。人の 死をめぐる情報の需要は 拡大し続けていくとみら れる。

#### 「おひとり様」が増加

#### ひとり暮らし高齢者の推移

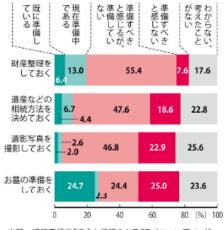


ひとり暮らしの高齢者 は、1980年には男性 19.3万人、女性66.8万人 だったが、2030年には男 性287.4万人、女性438.9 万人にまで増加。男性の 伸び率が著しく、未婚化 の影響が大きい。

#### 「終活」の準備は進んでいない

ライフプランを自分で決定するという意識が高まっており、「死」も例外ではない。ただ、死に際しての事柄について、「準備すべきと感じるが準備していない」という層が最大のボリュームゾーンとなっている。これは情報不足に起因すると考えられる。

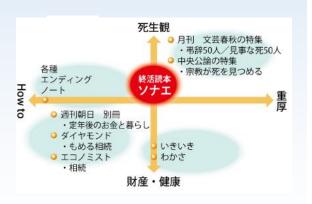
#### 事前準備の実態



出所 経済産業省「安心と信頼のある『ライフエンディング・ ステージ」の創出に向けた普及啓発に関する研究会報告書。

#### 「終活」情報が求められている

エンディングに関する情報提供にとどまらず、死をみつめ、考える重厚さを併せ持った媒体を目指します。既存の媒体にはなかった領域での情報発信をします。



## バックナンバーのご案内



































2015 夏 第9号

終活&葬送資格の見分は方



2016 夏 第13号







2016 春 第12号









こだわりの 一点示事なアクセント 価値あるお別れ実例集 「値段」より「転待ち」 手づくりで生産を流出



2019 新春 第23号 2019 春 第24号

2017 夏 第17号 2017 秋 第18号

2018 冬 第19号

2018 春 第20号 2018 夏 第21号 2018 秋 第22号

# バックナンバーのご案内





2019 夏 第25号

2019 秋 第26号

## 広告料金と仕様

```
・表4 (裏表紙) 1,700,000円 (天地250mm×左右210mm)
・表2 (表紙裏) 1,500,000円 (天地297mm×左右210mm)
・表3 (裏表紙裏) 1,300,000円 ( " )
・中面 (カラー) 700,000円 ( " )
```

編集 : 產経新聞

発行 : 產経新聞出版

発行日 : 年4回(春号(彼岸)3月、夏号(お盆)7月、秋号(彼岸)9月、新春号(正月)1月)

体裁 : A4判、100~120ページ

価格 :880円+税 発行部数:6万部(全国)

> ●媒体・広告に関するお問い合わせは、 総合メディア戦略室03-3275-8898 もしくは ソナエ編集担当03-3243-3221

## 最新号のご案内

### 2020年冬号(vol.27)の主な内容(予定)2020年1月上旬発売



2019年秋号(vol.26)

特集 1 これで大丈夫!「死後の手続き」〜親、配偶者、自分〜 「最期と死後の憂いをなくす」は本誌のキャッチフレーズですが、実際 には役所への手続き、遺品整理、お金や相続など、気がかりなことが いっぱいです。

最愛の人や自分の最期を静穏に迎えるために、最低限やるべきことは何なのか。創刊7年目の本誌がこれまでの蓄積と最新情報を総結集。「ソナエ流」に分かりやすく、「心」の問題にも重点を置いて徹底解説します。

#### 特集 2 火葬 ルールと最新事情

葬送で最も悲しいけれど、亡き人と最も近づける場面。それが「火葬」ではないでしょうか。案外と知られていない火葬のこと、火葬場でのルールなどを詳細に紹介します。

「1週間は当たり前」ともいわれる大都市の「火葬待ち」など、「多死社会」を迎える日本の火葬の課題も探ります。

#### 広告原稿締切日 2019年12月20日